

論文

韓国との「歴史認識問題」をさかのぼる

——日本統治時代の事例から

荒木 信子（韓国研究者）

はじめに

現在の日韓関係は、慰安婦問題や戦時労働者（いわゆる「徴用工」）問題が象徴するような歴史認識問題が大きな部分を占めている。歴史認識問題の構図は、韓国が過去の日本統治時代の出来事を取り上げ、日本の責任を追及することが基本となっている。韓国側の見解や追及は、日本の立場からすれば事実関係を無視したものであるが、あたかも事実であるかのように欧米諸国へも広められている。

さらに、韓国側が告発、海外宣伝する過程に日本人が関係しているケースが少なくない。また、日本国内においてさえ、事実に基づいた正確な理解が行き渡っているとは言い切れない。

ところで、韓国はいつから日本統治時代の出来事を非難していたのであろうか。

1945年8月15日付以降から朝鮮戦争が勃発した1950年6月25日付までの韓国紙を筆者が調べたところ、米軍が南朝鮮に進駐した後の1945年9月中旬から日本に対する猛烈な非難が始まった。日本軍の「残虐」や「無能」、総督府の「搾取」を告発する記事、あるいは、「強制徴用」、「強制出兵」、「強制供出」などの文字が載る。

例えば、1945年11月に復刊した朝鮮日報は「日本の虐政三十六年」、同年12月に復刊した東亜日報は「断末魔行状記」という特集を連載している。

そうした対日論調にはイデオロギーの違いはなく、日本非難に疑問を差し挟む意見は、少なくとも紙面には現れていない。日本への非難が一斉に始まったのは、日本が朝鮮半島から去り、米国が進駐してきたことがもちろん最大にして直接の理由である。

だが理由はそればかりではないようだ。戦前の事情にまで遡ってみると、現在の歴史認識問題とよく似た構図を発見できる。

そのような視点から、本稿では1919年（大正8年）の三一運動の際、京畿道水原で起きた堤岩里事件を事例として取り上げる。

朝鮮統治10年目にして発生した三一運動は輝かしい朝鮮独立運動の原点とされ、韓国では3月1日は祝日で、例年記念式典が開かれる。その暴動鎮圧の過程で発生した堤岩里事件は、「日本の蛮行」として格好の事例とされている。当時の資料を読むと、事件自体は偶発的であるが、結果としては重大であった。この事件の背景やそれまでの経過は無視され、事件そのものだけが切り取られて海外に広まっていく様子は、意図的で悪意を感じる。

1 堤岩里事件をめぐる

『近現代史事典』と『血史』の記述

現代において堤岩里事件はどのように語られているのであろうか。

『朝鮮韓国近現代史事典一八六〇—二〇一四』（第四版、日本評論社、以下『事典』）を見ると、「堤岩里虐殺事件」の項には次のように書かれている。

3・1運動弾圧のため、日本軍が京畿道水原の堤岩里で引き起こした住民の集団虐殺事件。1919年4月15日、日本陸軍中尉・有田俊夫が率いる一隊は、堤岩里の教会のなかに運動に参加したキリスト教徒らを閉じこめ、集中砲火を浴びせかけた。このとき、一婦人が教会の窓から子供を差し出し、この子の命だけは助けて欲しいと哀願したが、日本軍はためらわず子供を刺殺した。一斉射撃ののちは教会に火を放ち、生き残った人々も全て焼き殺されたが、日本軍はさらに近隣の采岩里へと進み、民家31戸に放火、39名を虐殺した。日本軍の蛮行を聞いたアメリカ人宣教師スコピルトは現場に急行。その虐殺の光景を写真に撮影し、「水原での日本軍の残虐行為に関する報告書」を作成、米国に送付して世界の世論に訴えた。1982年韓国文化公報部は堤岩里虐殺現場の発掘調査を行っている。¹

なお、ここで言う教会とは、実際には少し大きいだけの普通の朝鮮の民家であった。²

『事典』の記述とよく似た内容は、三一運動発生翌年の1920年に上海で刊行された朴殷植『朝鮮独立運動の血史1』（以下『血史』）にも見られる。ここでは堤岩里ではなく「堤巖里」とされている。

四月一五日午後、日本の一中尉の指揮する一隊が、水原郡南方の堤巖里に出現、村民に対して訓示訓戒すると称して、キリスト教徒と天道教徒三十余名を教会に集合させた。そして、窓やドアをきつくしめ、兵隊がいつせい射撃を開始した。堂内にいたある婦人が、その抱いていた幼児を窓の外にだし、「わたしはいま死んでもよいが、この子の命は助けてください」と行った。日本兵は、子供の頭を突き刺して殺した。

堂内の人々が全員ほとんど死傷した頃、兵士は教会に放火した。洪某氏は、負傷したまま窓からとびだしたが、日本兵はこれを射殺した。康某氏の妻は、布団にくるまって^{かき}塙下にかくれたが、日本兵は同女を銃剣で突き殺し、布団むしにして火をつけた。³

どちらの記述も残虐性を強調し、よく似ている。著者朴殷植は独立運動家、言論家で、上海の臨時政府に関係があった人物とも言う。原文は中国語で書かれているが、理由の一つは「中国人に読ませ、中国領で戦う朝鮮人民の闘争への理解と連隊を呼びかける意味があったから」と同書日本語版解説にある。⁴ 筆者がかつて韓国について初学者だった頃、三一運動についてまず聞いたのは堤岩里事件で、その内容は『事典』、『血史』と同様であった。

終戦後の「朝鮮日報」の記述

終戦後、初めての三一節を前に、鮮内各紙は三一運動の話題が多数掲載された。1946年2月26日付朝鮮日報（以下「朝鮮460226」）では、「記憶に新しい己未闘争」という連載が始まった。記事は冒頭で、三一運動がなければ今日の解放もなかったとの認識を示している。一回目として、水原事件を取り上げている。

タイトルの己未闘争とは己未（つちのとひつじ）の年である1919年に起きた三一運動を指す。水原事件とは堤岩里事件のことである。見出しには「石油かけ全村焼き殺す、身も震える水原・発安の市」と書かれている。

世に言う「己未独立水原事件」は第一次独立宣言が発表されるや、水原郡内が独立万歳の声に沸き返り、日本の兵隊が銃と槍で多数の同胞を残忍無道に殺害することに興奮した群衆は憲兵隊を襲撃し憲兵一名を殺すと、日本の兵隊は一六の部落と三七〇戸余りに火を付けて焼き、死傷者千名余りと家を失った者一六〇〇名余りを出した。この水原事件の代表的な堤岩里発安市場の惨劇を紹介することとする。

二七年前の三月一日

時は一九一九年三月一日！ウイルソン大統領の民族自決発表とパリで開かれた講和会議に朝鮮代表出席と同時に、国内事情としては自主独立の民族的意志表示を世界に表明する切迫した形勢において宗旨を異にする宗教団体が大同団結して敢然と立ち上がった独立運動は、日本警察の物々しい警戒のもとで組織的に全国津々浦々に密命が下された。

水原郡郷南面堤岩里発安はちょうどこの日が市の立つ日であった。朝から売買に集まっていた人々や当地の天道教区長安政玉氏は、数日前から天道教人と基督教人とが徹夜で太極旗と独立宣言書を風呂敷に包んで持ち、市場へ向かう群衆に独立宣言書と太極旗を配り、宣言文を朗読した。数千の群衆が一斉に叫んだ「大韓独立万歳」は発安の市場が移っていくように群衆はこの路地あの路地で太極旗を振り、声を枯らして万歳を叫んだ。

ところが多数の民衆にどうしてよいか分からず、慌てた日本の兵隊が銃や刀を群衆にむやみに振り回し理由なく発射したが、屈しない群衆は結局数十名の死傷者を出し、当地の天道教人と基督教人たちは残らず逮捕され、結局この日はそれで終わった。三月五日に逮捕された四〇余名は八〇度の笞刑を受け、のそのそと家に帰った。

凶鬼！佐坂才吉

既に祖国光復に命をかける覚悟で安政玉氏以下当地の天道教人たちは持っている土地を売ってソウル中央教区に独立運動資金として送り、記念写真まで撮って、何としても八〇度の笞刑に引き下がるものかと、日が経つにつれ彼らの反抗運動は水原一帯で白熱化した。すると、当地で雑貨商をしていた日本人佐坂才吉という者が、水原日本軍に対し、彼ら天道教人、基督教人をこのままにしておけば当地在留日本人の生命財産が危険だという理由で処分を要請すると、日軍は遂に決断を下し、倭奴の悪政を代表した人類の歴史で例えようのない大惨劇を演出する事となった。

三月（原文ママ）一五日午後一時頃、日兵は堤岩里を囲み日軍将校と軍卒多数が

佐坂才吉を案内役に集落へ入ってきて、一五才以上の天道教人一三名（安政玉含む）、基督教人一〇名（いずれも記事では実名が挙がっている）の諸氏を呼んで帯同し、水原日軍守備隊と協議することがあるといい、同里の礼拝堂へ連れて行った。彼らを礼拝堂に入れ、外から扉を閉めた後、石油を撒き火を付け、全員を焼き殺そうとし、その時飛び出た人を銃で撃ち殺した。そして彼らの家までも石油を撒いて火を放ち、その集落三九軒は前後三日間も燃え続けた。こうして火を付けた彼らは今度は同じ集落「コジュクコリ」というところへ行き、天道教人六名（記事では実名）を逮捕して、（場所を示すか？不明）に移り、つかんでしばりつけた。さらに、石油を撒いて火を付けて辺りを焼き、銃で撃って殺害した。

日軍、むやみに撃つ

この光景を見た女性たちは気が狂ったように泣き叫ぶので、鬼畜のような日軍はむやみに銃を撃ち、多数の負傷者を出し、首を切られた洪元植氏（訳注・発安のリストに入っている基督教人の一人）夫人金氏と姜泰成氏（訳注・同前）夫人金氏は日軍に向かって泣き叫んだとして刀で首を切られ胴体は火で焼かれ、頭はさらし首とされた。なんという惨劇であろうか。これが世に言う「発安場」礼拝堂事件の全貌である。

この記事から三年足らず後、1949年1月18日付朝鮮日報（以下「朝鮮490118」）には「水原郡民のけなげな至誠の結晶、独立記念碑建立、己未年虐殺の場で輝く除幕式」という記事があり、記念碑が建てられたことが分かる。

輝く大韓民国政府が樹立された（訳注・1948年）今日の栄光は、あの己未年独立運動で倭敵の銃剣の前に万歳を叫び撃たれた数多くの先烈志士たちの高潔な血の真情であるが、倭政四〇年余り、この国土にあらゆる場所に倭敵の功碑だけが侵略の跡である。解放になると各地でこの恥辱の記録を消すのに人々は忙しいが、その足跡に我々の新しい歴史の記念塔を建てる意志は在ることも知らなかった時に、今己未年血と涙の記憶も新しい水原の片隅に郡民たちの至誠の心で独立記念碑を建立されたのである。

この碑は三一運動当時、我々の愛国先烈たちを無残にも虐殺した倭奴（ウェノム）野口光三と川端豊太郎の卑劣この上ない追念碑を、八・一五の解放と共に壊した水原傍花随柳亭の場所に建てられることになったのであるが、昨年一〇月二二日に着工し竣工まで延べ工事日八〇日、五二万ウォンの工事費も関・水原郡守をはじめとする実に二六万名の郡民と学生三万名のけなげな至誠によって相成ったのである。

この後続く文によると、新しい碑は「大韓民国独立記念碑」として、同月16日に除幕式が行われた。式では、内務長官申性模、文教長官安浩相、京畿道知事具滋玉、国会議長申翼熙ら要人が出席し挨拶した。式典出席者の顔ぶれを見ても、この記念碑は大きな意味があるものであったようだ。記事文中の二人の日本人については後にも触れる。

『キリスト教関係者が見た騒擾地の実態』の記述

次に事件当時、日本人が残した記録にはどのように書かれているのか。「日本基督教会

各派同盟」、「宣教師団」、「大日本平和協会」合同の騒擾地視察報告書『キリスト教関係者の見た騒擾地の実態』（以下『実態』）から引用してみる。基督教関係者は総督府に批判的で騒擾を起こした側に立つことがあったので、総督府とは意見が対立することがあった。実際、『実態』を作成するに当たり視察したと考えられる、日本メソジスト基督教会石亀亀治と朝鮮総督府内務部長官宇佐美勝美の間での論争が『時事新報』に掲載された。そのような事情を勘案しても、既出の『事典』や『血史』とは異質の記述内容である。

以下は同報告書の関連部分の概要である。

騒擾は3月1日に京城府内で発生したが、中旬から下旬になると京城府内は鎮定され、検挙から逃れた者たちが郡部へと出て、騒擾を起こした。

その様子が如何に荒々しかったかと言えば、3月28日、水原の西約八里にある沙江では暴徒400名が駐在所を襲撃したため、応援の警察官を送ったところ、水原警察署の野口巡查部長が暴徒により殺害された。

その後も周辺で暴徒の破壊活動は続き、同月31日には水原西南方五里にある発安場（原文ママ）で開かれた市で太極旗を押し立て、路傍で演説をし、万歳を高唱しながら暴行投石し、内地人小学校に放火して万歳を高唱するなど乱暴狼藉を働いた。彼らは発安場周囲の山でかがり火を焚いて示威運動を行い、内地人の退去を迫ったので、女性や子供は三里離れた三溪里に避難し、男性は武装して巡查や歩兵と共に警戒に当たったという。

駐在所、面事務所（引用註・面は行政単位、面事務所はその役場）、民家などへの破壊行為は続いた。4月3日、暴徒千名が長安・雨汀の両面事務所を破壊し書類を焼き、面長（引用註・面の首長）を拉致した。暴徒はさらに二千名に膨れあがり、水原西南方約八里にある花樹駐在所を襲い、川端巡查と撃ち合いになったが巡查の弾が尽き、惨殺された。巡查の遺体には「五十一箇所の創痕を残し耳鼻を殺ぎ、陰具を切断する等残酷を極め」という。暴徒は駐在所に放火し武器を奪って引き上げた。

以上が『実態』に書かれていた、水原地方での暴動のおおよそである。この記述からわかるように、朝鮮人暴徒はかなりの暴力沙汰を起こしていた。「朝鮮490118」に名が出てきた、野口光三、川端豊太郎とは、水原の暴動で殉職した内地人警官だったのである。記事にあったように、二人は朝鮮人を虐殺したどころか、全く逆の立場だった。

暴動の様子はここまでで十分に激しいが、あくまでもこの後の事件の前段階である。『実態』では堤岩里の教会での事件について、次のように説明している。

一般の状況斯くの如くして（引用註・既述のような暴力沙汰）諸種の流言飛語（ママ）尚其の跡を絶たず、此の時に当り中尉（引用註・歩兵七九連隊の有田俊夫中尉）は同地方騒擾の根元は堤岩里に於ける天道教並に基督教なることを聞き、之が検挙威圧の目的を以て部下一名を率い四月一五日午後三時半発安場出発巡查及び巡查補と同行し、途中暴民の逃亡に備うる為巡查二兵二名を付し小隊主力の反対方面に行動せしめ堤岩里に到着するや巡查補をして天道教徒及耶蘇教徒二十有余名を耶蘇教会堂に集合せしめ先回の騒擾及将来の覚悟に関し二、三質問を試みつつありし間一名のものは逃亡せんとせしにより之を防止せるに他の一名と共に打ち掛かりしを以て直ちにこれを斬り棄てたり、此の景況を見るや鮮人全部は暴行の態度に出て其一部は木片又は腰掛を以て反抗し来りしを以て直ちに以て、兵卒に射撃を命じ殆

んど全部を射殺するに至れり、此混乱中西側隣家より火を發し暴風の為め直に（ママ）教会堂に延焼し終に二十余戸を焼失するに至れり。

中尉は兵を二分し当地人民の避難及び家財の運搬に従事せしめ自ら兵二名を以て背後に到り警戒を為せり。

要するに中尉の行動は当時の実情之を然らしめたるものありたるも、其の手段方法穩当ならざる廉により上官より嚴重に処分せられたり。⁵

龍山軍法會議の記録

文中の中尉は、『事典』にも名前が挙がっていた陸軍歩兵中尉有田俊夫（歩兵第七九連隊付）であり、堤岩里での殺人・放火の罪を問われて朝鮮の龍山軍法會議で審理を受けた。大正8年8月21日、無罪が言い渡されたが、その際の判決理由から事件の経過を追ってみる（朝鮮軍司令官宇都宮太郎から陸軍大臣田中義一宛「有田中尉二係ル裁判宣告ノ件報告」⁶、以下「裁判宣告」）。

その経過の大筋は、先出の「騒擾の状況」とほぼ同じである。猖獗を極める暴力を目の当たりにして、中尉は主謀者である「耶蘇教徒及天道教徒」を剿滅し、その根拠地を叩いて禍根を絶つべきと考えたというのである。

同月一五日午後三時頃部下の下士卒十一名を率いて堤巖里（ママ）及古洲里に到り同処の耶蘇教会堂及付近の原野に堤巖里に住する教徒たる十六歳以上五十八歳以下の男子二十一名古洲里の教徒たる十八歳以上五十歳以下の男子六名を呼び集め部下に命じて之を射殺又は刺殺せしめ其の内一名は被告自ら之を斬殺したり又偶付近に在りたる教徒の妻女一名被告等の行動を見て畏怖の状なきのみならず却て罵声を放ち反抗の意を示したるより之を寛假（かんか、とがめ立てしないこと）するは禍根を絶ち任務を尽す所以に非ずと確信し之亦被告自ら之を斬殺したり且部下に命じて教徒の設立したる前掲耶蘇教会堂並天道教会堂と認めたる民家及び教徒の一家屋に放火せしめたりしに教徒以外の者の家屋にも延焼し遂に二十七戸を焼くに至れり尚一名の婦女流弾に中りて翌十六日に至り絶命したり。

なお、中尉が無罪とされた理由は、後述する朝鮮軍司令官の慎重に事に当たるようにとの訓示があったにもかかわらず、中尉が個人的に「誤解」をしていたとされた。中尉の考えとは「裁判宣告」によるところである。

私に謂えらく今回の暴動は一朝一夕にして発したるものに非ず。彼等朝鮮人中帝国の治下に在ることを憚らずして多年我官憲に対して反感を懐ける不逞の徒が、偶民族自決の論及之に関する事例に刺激を受け反抗の意を決したるものなるが故に、其の決意頗る固く尋常手段の得て抜くべきものに非ず。要するに此等の主謀者を剿滅し其の巢窟を覆えし、以てその非望を根絶せしむるに非ざれば、到底鎮定の功を奏すべきものに非ずと。折柄新聞紙は各地暴動の状況益悪化しつつありて近く討伐を令せらるべき旨を報じたり。続て暴動鎮圧に関する朝鮮軍司令官の訓示及び歩兵第四十旅団長の命令ありたり。而して此の訓示及び命令は固より被告が解したるが如

き趣旨に非ざりしも、被告は自己の所信に基き之を土匪討伐に類することを為すの趣旨と誤解したり。

以上のように事件に関する記述を並べてみると、それぞれ細かい部分は異なっている。それを踏まえてもなお言えるのは、『血史』とそれを踏襲していると見られる『事典』は、事件の前提となる朝鮮人側の暴力行為には触れず、日本の「蛮行」ばかりを声高に強調している点で際立っている。一方で事件発生間もなくの調査報告である「騒擾の状況」、「裁判宣告」と「朝鮮460226」を比べると、意外と近い部分もある。

朝鮮軍司令官の訓示

さて、先ほど有田中尉の「裁判宣告」の中で朝鮮軍司令官の訓示について触れたが、ここでその内容について見ておきたい。

万歳騒擾の鎮圧に当たって、当時、朝鮮軍が暴徒に対して配慮をしていたことは、宇都宮太郎・朝鮮軍司令官の次の訓示からもわかる。これは大正8年3月12日に発せられたものである。

(前略) 抑(抑も) 人類相残害するは人道の許さざる所、況んや内鮮人は元来同族にして群衆の大部は或は一時の誤想に依り或は一部不平者の煽動又は脅迫に依り何等の遠慮(引用註・先々のことまで考えること)なく付和雷同せる者なるに於ておや、されば騒擾を鎮圧するに当たりては成るべく穏和的手段に依り武器使用の如きは絶対に之を制限し真に止むを得ざる場合に限らざるべからず、将校以下一兵卒に至る迄深く此の旨を体し決して違背すべからず。

若し夫れ死傷者発生の場合に於ては、博愛仁慈の精神を以て、其の罪を憎んで其の人を悪まず厚くこれを遇し、祖先の遺風たる武士道の精華を発揮するを要す。⁷

さらに十項目の「軍司令官の希望」を幹部に伝え、一兵卒にまで徹底するよう指示している。その内容とは「(武器使用は)最後の時期まで之を差し控える」、「最小限度に制限」、「必要さるや直ちに之を中止」といった以外には、朝鮮人に対し同胞として接すること、死傷者の扱いを丁寧にすること、その遺家族に慰撫善導すること、現地の官憲、警務機関、在郷軍人、人民などと連絡を保つこと、等々である。

特に目を引くのは八項目めの外国人宣教師への注意であるが、それは次のようなものである。

八 無関係の人、殊に老幼婦女等を殺傷せざることに特に注意すること。又外国宣教師等に対して顕然たる確証、例えば現行犯の如き確証あるにあらざれば大勇氣を以て隠忍尤も慎重の態度を持すること。⁸

日本側が、騒擾鎮圧にあたり如何に神経を尖らせていたかを十分に知ることができる。加えて、外国の宣教師たちがこの騒擾に影響を与えているという事情を把握しつつも、「現行犯の如き確証」がなければ堪え忍んで慎重にあたるよう指示している点も当時の状

況を反映している。水原の日本軍の行動が組織的、意図的とはいえないだろうか。

2 プロパガンダ戦の展開

後手に回る日本

三一運動の後、齋藤実総督が新施政を始めるにあたり、学務局に宗教課が新設された。その初代課長に着任した半井清によると、大正10年、朝鮮総督府は半井清の外、騷擾後、京畿道警察部長となっていた千葉了、総督府嘱託山上昶の三名を欧米に派遣した。彼らは『朝鮮の統治と基督教』（朝鮮総督府、大正10年8月）、『朝鮮における新施政』（朝鮮総督府、大正10年10月）の英訳版を携えて渡航し、各所に配布した。朝鮮についても日本についても米国の中に誤解があるので、それを解くことが使命のひとつだった。⁹

『朝鮮の統治と基督教』は、併合前、朝鮮に基督教が入って来た歴史から書き起こし、併合後は朝鮮総督府がどのように基督教と向き合ってきたか、さらに三一運動後の新施政（文化統治と言われる）での基督教政策を説明したものである。

『朝鮮における新施政』は、三一運動後の新しい施政方針と施策について詳しく説明したものである。むろんどちらも三一運動を意識したものである。

『朝鮮の統治と基督教』の中では水原の事件について、世間で誤って伝えられていることを指摘している。

此事件（引用注・三一運動）は種々の方面に於て誠に重大なる意味を有するものである。此事件に対する当局の措置に就て世間で種々の批判があったが、此等の批評の当否に関して彼是詮索をするのは此冊子の目的ではないが只批評の根底ともなるべき事実其者が世間に誤り伝えられることの多いのは実に遺憾とする所である。

例えば水原に於ける基督教信者の被害の如きは随分針小棒大に宣伝せられて居るが、其直接の動機は同地に駐在する内地人の警察官二名が彼らに依って無残に殺戮せられたことにあると言う事実は余り知られて居ない様である¹⁰。

事件の背景が十分に伝わっていない中、朝鮮特有の事情に関してまで世間が知ることは容易ではなかった。つまり、朝鮮においては宗教が政治活動と結び付く傾向が強く、統治上取締が必要であるという点である。三一運動の大本となった天道教は、かつて東学党の乱を起こしたこともある。こうした朝鮮の事情について、『朝鮮の統治と基督教』は次のように書いている。

思うにこれ（引用注・この前の部分で「朝鮮における基督教の迫害」が実態が理解されないまま標語になっていると指摘している）は、前にも述べた通り朝鮮では兎角宗教と政治とが相苟合し易い慢性的の痼疾があり、其為めに当局に於ても治安の保持上必要なる取締を加ふることがあるのを、訳もなく宗教に対する圧迫と見誤ったものもあろう……¹¹

朝鮮事情を取材する者たちの取材方法についても、批判的に述べている。彼らの多くは表面だけを見て観察した気分になっている、ということを指摘している。

朝鮮問題は近頃世界の耳目を集め海外の新聞雑誌等にも随分論評せられ、又多くの所謂朝鮮通なる者から様々な批評も聞くのであるが、多くは二三週間朝鮮を汽車によって旅行したという程度の視察に過ぎないものであって、その材料の如きも重に旅行者に手近なる人々、例えば視察者が宗教に関係のある人であれば、其の土地の宣教師から聞いた話が多く之によって批評を下すと言う風であるから事の真相を捕捉して公正なる観察をするのは極めて困難である。中には初めから或予断を以て、又は自己の都合のよい目的の為にこれに利用せらるる材料のみを蒐集せんとして朝鮮に来る人もあるのは誠に迷惑千万なことである。¹²

日本に関する報道が悪意を以て行われていたとの指摘もある。三一運動の記事に偽写真が使われていたことは、十分にその証拠となるだろう。以下は『朝鮮の統治と基督教』からの引用である。

朝鮮で働いて居る米国の宣教師達が朝鮮に於ける日本の行動につきて非難攻撃を試みた通信や論文を幾編か読んだ後、私は偶然或事実の際会して疑いを起こすようになった。そこで私は京城へ出掛けて行って、実地に調査した。此等の事実の一つは朝鮮から途って（原文ママ）来て米国の信用ある一雑誌に掲載された写真に、日本兵が朝鮮人を銃殺して居る光景を写したものがあつたが其兵士の着用（原文ママ）して居る軍服は今日用いられて居るのでなく、一千八百九十五年日清戦争中に用いられて居たものである。そこで調べて見ると、其の写真は同戦争中に朝鮮服を着て（原文ママ）居る支那人の軍事探偵が処刑される所を写したものであつた。此写真を米国へ送って公刊せしめた人達は、始めから其雑誌の発行者を通じて米国の読者を欺こうと企て、そして其の通り欺いたものだ。かように故意に人を欺く者が詐欺師を働くのは只に一回に止まらぬだろう¹³。

偽写真は、昭和期に中国との戦争で「日本軍の蛮行」を示す証拠として使われるケースが見られるが、それよりも数十年前に、既にそうした手法が日本に対して使われていた。

米国人の同情

一方、対する朝鮮側は宣伝活動に長け、米国人の同情を得ていた。

「米国ニ於ケル独立運動ニ関スル調査報告書」（朝鮮総督府警務局、大正10年9月）から、米国人の同情運動を見てみる。当時、米国では移民したアイルランド系住民が多く、アイルランド独立運動が活発に展開され、米国にはアイルランドに同情を寄せ支援する者たちがいた。朝鮮独立運動はこれに準じる問題と見なされていたのである。日本から見れば歴史的経緯も実態も異なっているが、米国ではそのように考えられていた。今ではあまり聞かれないが、戦前は朝鮮人自身が自分たちをアイルランドに例えて語ることがしばしばあった。

では、なぜ米国人が朝鮮人に同情したかの。その理由について、同報告書では次のように書いている。

朝鮮独立運動の勃発せる当初、其米国に於ける反響は必ずしも大ならず。寧ろ朝鮮は日本の統治に依り幸福の状態にあり、又自治能力を有せずとなすもの多かりしと雖、独立運動に対して暴虐を加えたりとの記事三月末より頻々として上海、天津及北京にある連合通信（引用註・A P通信か）に依りて伝えられ、特に客年四月一四日より一七日に亘りニューヨーク「セラルド」（原文ママ）紙が在鮮米国宣教師より出てたる材料に基き日本官憲の残忍行為を詳述し、同時に北京、天津「タイムス」通信員ジャイルスが三箇月実地朝鮮を視察したりと称し極端なる排日的通信を紐育「タイムス」紙に掲載するや、少なからず米国人の感情を刺戟せるが如く（中略）

特に安城事件（引用注・水原の件も含む）は日本の軍国主義に対して反感を高むるに至れり茲に於て米国人は日本の措置を憤り反動的に朝鮮人に同情を表するに到れり……¹⁴

つまり、三一運動発生の時点で、朝鮮人は米国のキリスト教関係者を通じて米国人を味方に付け、国際的な反日宣伝を行っていたと言える。しかもアイルランド独立運動に乗じている。

在米朝鮮人の活動

次に、米国での反日活動に従事していた在米朝鮮人に関しては、『英米に於ける朝鮮人の不穏運動』（朝鮮情報委員会、大正10年4月）¹⁵で書かれたものをまとめると以下のようになる。

在米朝鮮人数は同報告書が書かれた時点の推定で、本土一万五千人、ハワイ四千人、メキシコ五千人、カナダに僅少という。生業として米国西部では農業労働者、中部は鉱山従事者、東部は家庭労働者。東部と中部には多少の学生が散在している。¹⁶

在米朝鮮人は独立運動開始以来、朝鮮人自身の団体として「朝鮮人協会」、米国人側に「朝鮮同情者協会」というものがあつた。朝鮮人協会は、ニューヨーク、シカゴ、アクロン（オハイオ州）、デトロイト、サンフランシスコ、ロサンゼルス、サクラメントなど13箇所、その他ホノルル、メキシコシティ、バンクーバーにも地方会を設け、「北米朝鮮人中央協会」（サンフランシスコ）を統括機関としている。

米国人側の機関である朝鮮同情者協会はワシントン、フィラデルフィア、オハイオ、ミシガン、イリノイ、オレゴン、ニューヨーク、ペンシルベニア、カリフォルニア、カンザスなどに設置。当該地方の著名な政治家、宗教家、大学教授などを会長に選任し、集会や講演会を開き、会費の徴収も行っている¹⁷。

在留朝鮮人の中心人物として、所謂「朝鮮共和国仮政府」（引用註・大韓民国臨時政府を指す）大統領李承晩、米国に帰化しフィリップ・ジェイソンと名乗っていた徐載弼、軍務総長と言われる盧伯麟、ノーザン・ウエスタン大学講師ヘンリー・チョン、パリ平和会議に密使として派遣された金奎植、北米朝鮮人中央協会会長尹炳珠らが挙げられている。さらにこれに続けて「かの『コリアズ・ファイト・フォー・フリーダム』の著者なるマッ

ケンジー及び朝鮮共和国最高委員部の法律顧問フレッド・ドルフ」を挙げている。¹⁸

以上が報告の内容である。

ここに登場するうち日本でも名を知られているのは李承晩で、彼は言うまでもなく1948年に樹立された大韓民国初代大統領である。徐載弼は金玉均らと共に甲申政変を企図するが、日本に亡命した経験もある。彼らは日韓併合の頃に米国に亡命し、米国、ハワイ、上海などを股にかけて反日活動を行っていた。フレッド・ドルフは臨時政府における当時の外交陣営の顧問であった。¹⁹

マッケンジーはジャーナリスト、文筆家で、彼の著書は日本では『朝鮮の悲劇』（原書刊行は1908年、日本では渡部学訳注、昭和47年初版）とのタイトルで、平凡社東洋文庫から出版されている。

『コリアズ・ファイト・フォー・フリーダム』は『朝鮮の独立運動』と韓訳されているという²⁰。同書は、前半は『朝鮮の悲劇』を要約し、後半は併合以後の日本統治と三一運動の経過を詳述し、1920年に刊行された²¹。

マッケンジーは1920年、臨時政府宣伝委員部に派遣され、ロンドンにおいて自著『コリアズ・ファイト・フォー・フリーダム』の宣伝活動を行い、人々の関心を引きつけるに至った。ロンドンで発行される雑誌にたびたび投稿して、日本の基督教迫害、日本の東亜侵略の野望を主張した。また政治家、宗教家、実業家の一部を取り込み、ロンドンで朝鮮問題同情者会を設立した。これが英国における朝鮮独立運動の宣伝機関設立の嚆矢であったという²²。

『血史』は先述の通り1920年に上海で刊行されたが、ここには臨時政府があった。『コリアズ・ファイト・フォー・フリーダム』も1920年の刊行であった。日本語版はどちらも1972年に刊行されている。日本においてイデオロギーから自由なコリア関連書籍は、1980年代半ばを過ぎるまで出会うことは難しかった。

本稿では米国での活動に限定しているが、他にも中国大陆、満州、ソ連などを舞台に、それぞれ活動が行われていた。

内地人の無理解

最後に触れるのは、内地人(日本人)の無理解についてである。

世界を駆け巡った誤情報を日本人が再発信したと思われる事例を紹介する。1921年に米国で刊行された“What Japan wants”(Thomas Y. Crowell Company 刊)というカリフォルニア大学日本人教授による書籍がそれである。京畿道警察部長千葉了(前出)が当時この本を見つけたが、そこには水原の事件について「日本軍警は朝鮮村落を襲撃して、無抵抗の老若男女数千人を虐殺した」と書かれていたという。これに関して本人に手紙を送ったところ、「二、三の雑誌を材料として書いた、杜撰だったとわかった、すまなかった」旨、返事があったという。千葉は戦後のインタビューの中で「日本人自身が書いたところの筆というものは、朝鮮人が口から伝えるよりもっと害悪を流す」と述べている。²³

内地人の「無理解」は、日本統治時代に見逃されがちな観点であると筆者は考える。

次の文は、『万才騒擾事件(三・一運動)』(友邦協会)の編者近藤釵一(昭和9年から終戦まで京城日報記者として在鮮)が、その序文とも言える「『阪谷文書』の文献的権威と価値～万才騒擾事件の本質と原因～」に記したものである。「阪谷文書」とは子爵阪谷

芳郎博士が蒐集した文書で、『万歳騒擾事件（三・一運動）』としてまとめられている。

…（略）只怪訝なことには、日本内地の政治家やジャーナリズムが、その独立主義者達の根底にもつものを知ってか知らずにか、彼等や外国宣教師達と異口同調（ママ）に、総督府を非難していることであるが、これはその言論統制のため、統治上の国是に対する朝鮮民族の反抗という根本的な問題を認識することが出来なかったためである。²⁴

この部分の直前で近藤は、異民族統治たる朝鮮統治の不合理性を指摘している。朝鮮総督府は、「（日韓併合という）国是と、朝鮮独立を希求する民族意識との板挟みの中で、その至難な統治に当たっていた」²⁵とも述べている。近藤は朝鮮と深く関わりながらも、日本による朝鮮統治を手放して礼賛していたわけではないが、そのような人でも朝鮮の独立主義者や外国宣教師と同じことを言う日本人を訝しく感じていた。この記述は現代的な意味においても非常に興味深い。

併合時代でさえ、日本人が朝鮮事情や日本による行政について無理解であったこと、認識があいまいだったという状況は、戦後、朝鮮に関わる自虐史観の下地となったと考えられる。

おわりに

(1) パターンの酷似

冒頭でも触れたが、日本と韓国との歴史認識問題の基本の構図は、韓国が日本を責め立て、日本が謝ったり、狼狽するというものである（最近は変わってきた）。さらに欧米が日本に批判的な見方を取り、日本人自身までが自国政府を責め、自国の歴史を他国の目線で見つめる。

これと同じ構図が、本稿で示した事例から読み取れる。

第一に、歴史認識問題において、韓国は日本統治下の出来事を日本の「蛮行」だと断じる。統治された側である韓国人は、その意味において圧倒的に「有利」である。

第二に、韓国側が、事実と異なる宣伝を行い、それが海外で定着し、日本は対応に多大なエネルギーを割かれる。三一運動の際には、誇張された情報が米国を中心に広がって、朝鮮総督府はその対応に相当の気を遣っていた。

第三に、問題を大きくして日本を攻撃しようとする人達が韓国、朝鮮にも日本にもいる。

(2) 日本統治下での宣伝

日韓の歴史認識問題を考察するとき、戦後に始まった問題であると無自覚に思い込んでいる。しかしながら、本稿の冒頭で述べたように、解放後、間もない9月半ばから新聞紙上には反日言説が溢れ始める。そして、本稿で示したように、さらに遡れば日本統治時代にも同様の反日の言動があったのである。

一般に三一運動は独立運動と称されるが、その宣伝活動だけを取り上げてみれば、現

在の反日言説と基本的には同じと考えられる。圧倒的に日本の立場が強かった時期にも反日活動が行われていた。

日本の統治下でも、今と酷似した反日活動があったということは何を意味するだろうか。言い方を変えると、なぜ統治下で行った方法と酷似したやり方を今も踏襲するのか。

それが彼らの日本に立ち向かう一つのやり方であるということである。しかも世界の潮流に乗るのに長けており、三一運動の時は、民族自決やアイルランド独立問題という海外の出来事を利用した。

(3) 日本自身の問題として

日韓の間の「歴史認識問題」は立場の相違による単なる認識ギャップではないし、ナショナリズムによる「意地の張り合い」でもない。韓国外交、闘争の手段であるとの側面は見逃せない。

敗戦により、戦前日本の全てを否定してしまったために、長年にわたり蓄積された朝鮮に関する知識や経験は活かされなくなった。もし三一運動の際の経験や、知見（騒擾の性質、プロパガンダ、外国勢力の引き込み、時流への便乗、内地人の無理解等々）、その他諸々が引き継がれて、日本自身の立場からの研究を深めていたなら、その後の歴史認識問題、特に慰安婦問題への初動は異なっていたのではないかと残念でならない。

韓国との歴史認識問題は相手を知ることが大切であるが、日本自身の問題として考えるべき点が多い。

注

- 1 『朝鮮韓国近現代史事典一八六〇—二〇一四』（第四版、日本評論社）48ページ
- 2 千葉了「三一事件後の朝鮮に赴任して（秘話体験談）1961.7.12～8.2」（「未公開資料朝鮮総督府関係者録音記録(4)「東洋文化研究」学習院大学東洋文化研究所、第五号、2003年3月」312ページ）
- 3 朴殷植著・姜徳相訳注『朝鮮独立運動の血史1』（東洋文庫二一四、平凡社昭和47年）212～4ページ
- 4 朴殷植著・姜徳相訳注『朝鮮独立運動の血史2』（東洋文庫二一六、平凡社昭和47年）312～23ページ
- 5 「キリスト教徒の見た騒擾地の実態」（近藤鋳一編『万才騒擾事件（三・一運動）(1)』82～5ページ、財団法人友邦協会、昭和39年）
- 6 「有田中尉に関わる裁判宣告」（アジア歴史資料センター、レファレンスコードC03022465000）
- 7 金正明編『朝鮮独立運動 I 本編（民族主義運動編）（明治百年史叢書）』（原書房、1967年）356ページ
- 8 同上356～7ページ
- 9 「万歳騒擾事件（三・一運動）とキリスト教対策…元朝鮮総督府宗教課長半井清氏をかこんで…朝鮮史料研究会録音修稿」、『朝鮮総督府資料選集齋藤総督の文化統治』（財団法人友邦協会、昭和45年）14～5ページ
- 10 『朝鮮の統治と基督教』朝鮮総督府、大正10年8月、『朝鮮総督府資料選集齋藤総督の文化統治』（財団法人友邦協会、昭和45年）128～9ページ
- 11 同上144ページ
- 12 同上144～5ページ
- 13 同上145～6ページ
- 14 「米国ニ於ケル朝鮮独立運動ニ関スル調査報告書」朝鮮総督府警務局、大正10年9月（『朝鮮総督府資料選集齋藤総督の文化統治』友邦教会、昭和45年）311～2ページ
- 15 『英米に於ける朝鮮人の不穏運動』（朝鮮情報委員会、大正10年4月）『朝鮮総督府資料選集齋藤総督の文化統治』（友邦シリーズ・第一六号、財団法人友邦協会、昭和45年発行）所収
- 16 同上330ページ
- 17 同上330～1ページ
- 18 同上331ページ
- 19 坪江仙二『朝鮮民族独立運動秘史改定増補版』（巖南堂書店、1966年）90ページ
- 20 F・A・マッケンジー著、渡部学訳注『朝鮮の悲劇』（東洋文庫二二二、平凡社、昭和47年）解説261ページ
- 21 同上266ページ
- 22 『英米に於ける朝鮮人の不穏運動』338～9ページ
- 23 千葉了「三一事件後の朝鮮に赴任して（秘話体験談）1961.7.12～8.2」（「未公開資料朝鮮総督府関係者録音記録(4)「東洋文化研究」学習院大学東洋文化研究所、第五号、2003年3月」316～7ページ）
- 24 近藤鋳一「『阪谷文書』の文献的権威と価値～万才騒擾事件の本質と原因～」（『万才騒擾事件（三・一運動）(2)』友邦協会、昭和39年）別16ページ
- 25 同上別14ページ

* 仮名遣いは新仮名遣いに改めて句読点を補って引用した。朝鮮日報記事は拙訳による。